

第8期第2回 レポート

第二部 上手繁雄氏講義について

上手先生の講義では、主に人口減社会の中で自治体はどうあるべきかについての示唆を得ることができ大変勉強になりました。その中でも私が特に学びを得た点は以下2点です。まず第一に、人口減社会において自治体の機能を住民にあまり不便を強いることなく変えるためにはどうすべきか。機能としてはコンパクトにせざるをえない状況の中、最適解を模索する中であらゆる機能を1つの拠点に集約化するという考え。将来的には道の駅を拠点とし、その中に郵便局やコンビニや役所機能などをすべて一気に通貫で対応できる施設に発展させる。スタッフも統一化し、道の駅のスタッフは郵便業務もコンビニ業務等、その中にある機能の業務をすべてできるようになる。道の駅が一般道のSA化として成長をとげ、一定の集客や認知度UPに貢献している中（加えて、交通の便も比較的よい場所にある）、とても現実的かつ効率的な考えだと思いました。その一方で、スタッフの一元化を実現するための法整備や体制整備等については具体的にどのように進めるか、ここが難易度高くかつ円滑に進めるための肝となると考えたので、具体的に今後の青写真についてはぜひお聞きしたいと思いました。

あわせて、公共交通機関の担保のためにオンデマンドタクシーをご検討されているとお聞きし、規制を超え一歩進もうとしている人口減に立ち向かっている自治体の真剣さをとらえることもできました。個人的には運送業（宅配便等）の同乗等やりやすいかつ法人として対応意思のあるところから進歩することについても、進めていくべき分野と捉えているので引き続き情報を取得していきたいと考えています。

第二に、今後の自治体の進むべき道及び道州制議論について。この分野については今後の動静が非常に気になる分野であったため、上手先生のお話を聞いて自身の整理につなげることができました。

市町村合併は昭和・平成と行う中で元来の9000から1700に落ち着いたことによって、しばらくは実施されそうにはないということ。また道州制の議論においては、それぞれの自治体の思惑がストレートに表出している分野でもあり、何かしらのメリット（あめ）がないと実現は困難であるということ。

道州制の議論については、自治体維持のための現実的な施策であると同時に効率的な自治体運営の解になり得るものである一方、感情的には弱い自治体が飲み込まれ、強い自治体が残る、自身の故郷の行方が気になるものでもあり、論理的な理屈と感情が入り交ざり、大変整理が難しいものだと思いました。自分が政治に関わるようになった時に、こういった論理と効率、感情と歴史といったような相反するものを取りまとめるとき、どのように思考を整理し、自分の意見として打ち出していくべきか。このお話を聞いて、そういったことを考える機会にもなりました。自分の中での折り合いのつけ方・進め方はシミュレーションでき、いい機会をいただくことができました。